

# 平成21年度 自己評価報告書

学校名 桑名高等学校 定時制

## (1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教科指導	<p>1 個々の生徒の実態に応じたきめ細やかな指導をし、基礎学力を定着させます。</p> <p>(1) 授業時間の確保 4 学年計年間 2000 時間の確保</p> <p>(2) 総合的学習の時間の充実 学期 5 回、生徒満足度 80%以上</p> <p>(3) 習熟度に応じた学習指導の充実 特別授業の実施、あり方の検証</p> <p>(4) 外国人生徒への支援 週 10 時間の取り出し授業の実施</p> <p>(5) 三修制希望者への支援 自校スクーリング実施</p>	<p>(1) 総合学習・行事・LHR等を除いた教科の総授業時間数は 1958 時間であった。</p> <p>(2) 29 回 38 時間の実施であった。生徒満足度 80%以上は達成。</p> <p>(3) 英・国・数で 1・2 年生に実施。</p> <p>(4) 15 名の外国人生徒が在籍し、6 名に週 10 時間実施した、通訳との TT で実施した。移転にともない国際教室の設備を充実した。</p> <p>(5) 2 年生の 2 名に自校スクーリングを実施、すべての単位を修得した。</p>	<p>(1) 行事の精選や時間割変更などを行い確保に努力しているので、ほぼ最大値になっている。これに総合学習 38 時間が加わるので 2000 時間の授業を実施した。</p> <p>(3) 特別授業だけの評価があるわけではないので、生徒の取組に差があった。22 年度入学生からは特別国語にかわり、学校設定科目「基礎国語」・「基礎国語」を設置した。別の科目としたことによりこれまで以上の学習効果が期待できる。</p> <p>(4) 本年度は小学校・中学校との交流ができたため内容が豊富になった。来年度以降も多数の外国人生徒の入学が予想されるため指導方法を引き続き検討していかなければならない。</p>
生徒指導	<p>1 一人ひとりの生徒を大切に、教師と生徒とのふれあいに努めます。</p> <p>(1) 中途退学者、休学者の減少</p> <p>(2) 学期毎の個人面談・人権学習の実施、</p> <p>(3) 年 2 回の自己をみつめる作文作成</p> <p>2 生徒が安全で健やかな学校生活を送れるよう環境作りに努めます。</p> <p>(1) 感染症予防教育やいのちの学習の実施</p> <p>(2) 生徒の学校生活への安心感 80%以上</p>	<p>1</p> <p>(1) 中途退学者は 8 名で昨年度より激減した。</p> <p>(2) 生活体験発表の作文と生徒会誌「尾野山」の作文を実施した。</p> <p>2</p> <p>(1) 感染症・いのちの学習・薬物乱用防止・親育ちなどの講座を実施した。</p> <p>(2) 安心感 82%</p>	<p>1 (1) (2) 面談や保護者連絡を確実に実施した。8 名の退学者が出てしまったが、怠学が原因での退学者に関しては、選抜時に「学ぶ意欲」をしっかりと確認すべきであった。</p> <p>2 校舎の移転に伴い教室が明るくなり、空調設備も完備して学習環境が改善された。特別支援を必要とする生徒についてその困り感を少しでも少なくする体制作りが必要である。</p>

進路指導	<p>1 生徒の自己理解を深め、主体的に進路を選択できるように指導の充実をはかります。</p> <p>( 1 ) キャリアアップセミナーの実施、相談体制の確立</p> <p>( 2 ) 働きながら学ぶ生徒の比率 90%</p> <p>( 3 ) 就職先の開拓</p>	<p>1</p> <p>( 1 ) 外部講師を招いて講演を行った。進学希望者は全職員の協力により 3 名とも希望校に合格した。</p> <p>( 2 ) 就業率 92.2%。例年より高いが、外国人生徒の就業率が 50%と低い。</p> <p>( 3 ) 就職支援相談員と協力して行ったが成果は少なかった。</p>	<p>1</p> <p>( 1 ) 卒業後の進路について自ら真剣に考える学習の継続的な実施が必要である。</p> <p>( 2 ) ( 3 )</p> <p>勤労に適さない生徒が増加しており、その対策として、職業訓練講座などへの参加をより促していく必要がある。外国人生徒の就職を支援する体制を作らなければならない。</p>
広報活動	<p>1 定時制教育を知ってもらうため、様々な機会を通じて情報発信をしていきます。</p> <p>( 1 ) 学期に一度の中学校訪問</p> <p>( 2 ) W e b ページを月に 2 回以上更新</p> <p>2 地元自治体や関係機関との密接な関係を築きます。</p> <p>( 1 ) 定時制振興会の活動</p> <p>( 2 ) 外部講師の活用</p>	<p>1 桑員地区と生徒が来ている近鉄沿線の中学校に 3 回の訪問を行った。その他の中学にも訪問し情報交換を行った。W e b ページ月 2 回以上の定期的な更新を行った。6 月に新規ページを作成して以来前年度の 1 . 5 倍のアクセスがあった。</p> <p>2 定時制振興会の開催時に自治体や教育関係者から意見をいただいた。また、総合学習に外部講師として地域の方にも多数来てもらった。</p>	<p>1 中学校訪問を 2 0 年度から 3 回にして、情報交換を密にすることで、学校見学者や入学志願者の数が増加した。中学校の多忙時期と重なる第 3 回の訪問の時期を再考する必要がある。</p> <p>2 全国的に振興会が廃止されていく中、自治体関係者との関係を強化していかなければならない。</p> <p>外部講師については、生徒の実態に合う人選が課題である。帰属意識がうすれ、授業以外への欠席がふえている生徒もあり、集団の中で行動する態度を養成していく必要がある。</p>
組織能力の向上	<p>1 校舎移転にともなう業務を遂行するにあたり、お互いが協力し合える職場環境を創り出します。</p> <p>( 1 ) 職員満足度 70%</p> <p>2 教職員が幅広く知識やスキルを習得するため校内外の研修会に参加します。</p> <p>( 1 ) 一人あたり 5 回以上</p>	<p>1 校舎移転のともなう会議等の情報はその度に伝達し、情報を共有できた。移転業務も協力し順調に遂行した。</p> <p>職場の人間関係 満足度 95%</p> <p>2 一人あたり年 5 回以上は実現できた。</p> <p>能力開発について 満足度 84%</p>	<p>1 定時制内部での情報共有や人間関係は良好な状態であるが、全日制や分校との意思疎通に問題がある。学校全体としてシステムを構築しなければならない。</p> <p>2 校外研修への参加について職場の支援や理解がある。校内研修をより充実させねばならない。</p>

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメント診断から明らかになった状況	
強  み	1 教職員も生徒も少人数なので、個々の考えや状況が把握しやすく、教職員の問題意識の共有化がはかりやすい。 2 わかりやすい、きめ細かな授業をめざして、各教科で継続的に取組をすすめている。 3 地域やPTA・同窓会・関係機関等の協力が得やすい。
弱  み	1 仕事が個人に負うところが大きく、組織としての能力向上や改善への取り組みが行いにくい。 2 教職員の異動が多く、取り組みが次年度に続きにくい。教職員が変わっても継続できる方策を確立する必要がある。 3 生徒数が少ない結果、予算が少ないので、活動が制限される。

(3) 組織力向上のための取組(改善策)

次 年 度 に 向 け た 取 組	
1 衛生看護科移転をひかえて、管理職からの情報提供をさらに進めるとともに、全日制・分校との意志の疎通をはかるシステムを構築する。 2 「高等学校教育における基礎基本を確実に修得」させるため、新指導要領の考え方をふまえ、新しい教育課程の編成をおこなう。 3 多様な生徒に対応するため、生徒の実態を多面的に把握することにつとめ、生徒個人の支援計画を作る取り組みをすすめていく。 4 外国人生徒の増加にともない、外国人生徒の日本語指導に関して研修会や先進校視察を行い、指導力の向上につとめる。 5 保護者会や家庭訪問だけでなく、学校行事への参加など、保護者との新たなコミュニケーションの取り方を工夫する。 6 職員満足度調査の結果をふまえ、人材育成の視点から、校内における研修を充実する。	